

大阪の元気文化を発信して45年 大阪文化祭

多彩なジャンルから77もの公演参加

大阪府・大阪市・(財)大阪21世紀協会は、大阪の芸術文化活動の奨励と普及をはかる目的で、大阪府内で行われる公演などを対象に、昭和38年より『大阪文化祭』を実施している。また、同祭でとくに注目すべき成果をあげた人や団体には、大阪文化祭賞運営委員会(会長:堀井良殿大阪21世紀協会理事長)より、「大阪文化祭賞グランプリ」「大阪文化祭賞」「大阪文化祭奨励賞」が贈呈され、その成果が讃えられている。45年目の今年は、5～6月の2か月間で実施。伝統芸能や現代演劇、大衆芸能、洋舞・洋楽など、幅広いジャンルから77もの公演参加があり、そのなかからグランプリ1件、奨励賞7件が決定した。

今年度グランプリは地主薫バレエ団に

今年度の大阪文化祭賞グランプリは、大阪市に活動拠点を置く地主薫バレエ団に贈られた。受賞公演は物語バレエの名峰で知られる「ロミオとジュリエット」全3幕。シェイクスピアの代表的な悲劇だが、大がかりなセットと多数のダンサーを必要とするため、バレエで全幕上演される機会は少ない。同団は、創立20周年記念公演として、この全幕上演に挑戦。主役ジュリエットには、同団で育ち現在はボストンバレエ団で活躍中の倉永美沙さんが、ロミオには同バレエ団の若手ホープである奥村康祐さんが務めた。大阪文化祭でバレエ団がグランプリを受賞するのは初めて。

主宰者の地主薫さんは、「知らせを聞いて驚きました。主役の倉永は“大阪で踊れるならぜひ!”と公演のために喜んで帰国してくれ、幼い頃から一緒に踊ってきた奥村とともに息のあった踊りを見せてくれました。20年間の総仕上げとして“成せば成る”の精神で挑んだ大作でしたが、現代にも通じる喜びや怒り、悲しみという感情を観客に理解していただけるよう、ドラマ性を大切にしました」と喜びを語った。また、奨励賞には文楽若手の豊竹睦大夫氏・鶴澤清旭氏などに贈られた。

大阪文化祭は、これからも元気な大阪文化を発信しつづける。

地主薫バレエ団創立20周年記念公演『ロミオとジュリエット』
(演奏は関西フィルハーモニー管弦楽団)

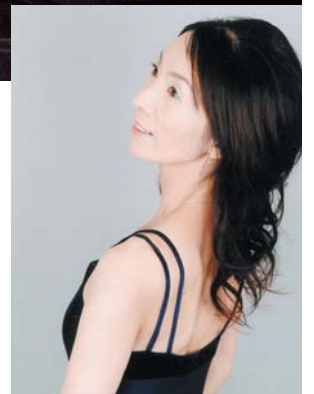


©尾鼻文雄



©尾鼻文雄

大阪文化祭賞グランプリの公演『ロミオとジュリエット』のワンシーン



地主薫さん
(地主薫バレエ団主宰)

平成20年度 大阪文化祭賞受賞者

第1部門(伝統芸能・邦舞・邦楽)

奨励賞 豊竹睦大夫(とよたけ むつみだゆう/文楽・太夫)

奨励賞 鶴澤清旭(つるさわ せいき/文楽・三味線)

奨励賞 山村若嶋紀(やまむら わかしまき/上方舞 日本舞踊)

第2部門(現代演劇・大衆芸能)

奨励賞 一風亭初月(いっふうてい はづき/浪曲 曲師)

奨励賞 南条好輝(なんじょう こうき/俳優)

奨励賞 劇団コーロ(演劇)

第3部門(洋舞・洋楽)

グランプリ 地主薫バレエ団(じぬし かおる/クラシックバレエ団)

奨励賞 晴 雅彦(はれ まさひこ/声楽家 バリトン)

奨励賞 谿 博子(たに ひろこ/ピアニスト)